

電気回路演習 II 第 6 回 (平成 19 年 11 月 16 日 (金))

演習

1. 図 1 に示す回路のコイル L に流れる電流を求めよ。角周波数は ω とする。
2. 図 2 に示す回路において、 Z_1 と Z_2 が R_0 に関して互いに逆回路の関係にあるとき、抵抗 R_1 に流れる電流が周波数によらず一定であることを確かめよ。
3. 図 3 に示す回路に関して以下の間に答よ。
 - (a) 直列 \Leftrightarrow 並列変換を行うことで R_0 に関する逆回路を求めよ。
 - (b) 端子間に電圧源を仮定し、独立な閉回路内および回路の外側に節点を置き、これらの節点間を結ぶ線が各素子を横切るように線を引くことで、 R_0 に関する逆回路を求めよ。
 - (c) $R_0 = 1 \Omega$, $R_1 = 2 \Omega$, $R_2 = 5 \Omega$, $R_3 = 1 \Omega$, $L = \frac{1}{40\pi} \text{ H}$, $C = \frac{1}{200\pi} \text{ F}$, $f = 50 \text{ Hz}$ の場合に對して、図 3 の回路のインピーダンス Z_i と逆回路のインピーダンス Z_{ir} を求め、 $Z_i \cdot Z_{ir} = R_0^2$ となることを確かめよ。

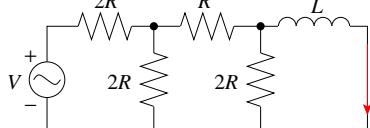


図 1

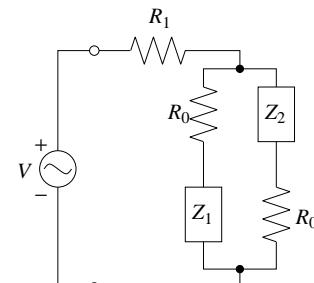


図 2

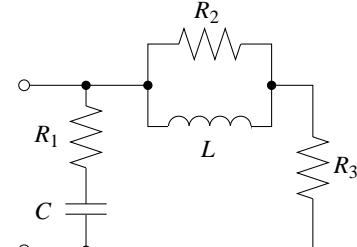
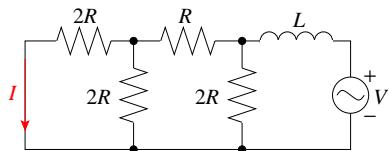


図 3

解答

1. 相反定理を利用して、問題の回路を直接解く代わりに、下図の回路の電流 I を求める。



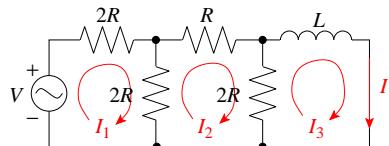
左側の抵抗のみの部分の合成抵抗は R と容易に求まるので、電源から回路に流れる電流 I' は

$$I' = \frac{V}{R + j\omega L} = \frac{R - j\omega L}{R^2 + \omega^2 L^2} V$$

と求まる。この電流は、最初の分岐で $1/2$ ずつに、次の分岐でも $1/2$ ずつに分かれるので、求める電流は以下のように求まる。

$$I = \frac{I'}{4} = \frac{(R - j\omega L)V}{4(R^2 + \omega^2 L^2)}$$

(参考) 図 1 の回路を閉路方程式を用いて解くこともできる。下図のように閉路電流を設定すると



閉路方程式は

$$\begin{bmatrix} V \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 4R & -2R & 0 \\ -2R & 5R & -2R \\ 0 & -2R & 2R + j\omega L \end{bmatrix} \begin{bmatrix} I_1 \\ I_2 \\ I_3 \end{bmatrix}$$

であり、行列式の値は

$$\Delta = 4R \cdot 5R \cdot (2R + j\omega L) - 4R \cdot (-2R)^2 - (-2R)^2(2R + j\omega L) = 16R^2(R + j\omega L)$$

である。電流 $I = I_3$ は

$$I_3 = \frac{\begin{vmatrix} 4R & -2R & V \\ -2R & 5R & 0 \\ 0 & -2R & 0 \end{vmatrix}}{\Delta} = \frac{(-2R)^2V}{16R^2(R + j\omega L)} = \frac{V}{4(R + j\omega L)} = \frac{(R - j\omega L)V}{4(R^2 + \omega^2 L^2)}$$

と求まり、相反定理を使って解いた結果と一致していることが確認できる。

2. Z_1 と Z_2 は逆回路の関係にあるので、以下のように α を定義する。

$$Z_1 \cdot Z_2 = R_0^2 \quad \rightarrow \quad \frac{Z_1}{R_0} = \frac{R_0}{Z_2} = \alpha$$

電源から右側を見た合成インピーダンス Z は

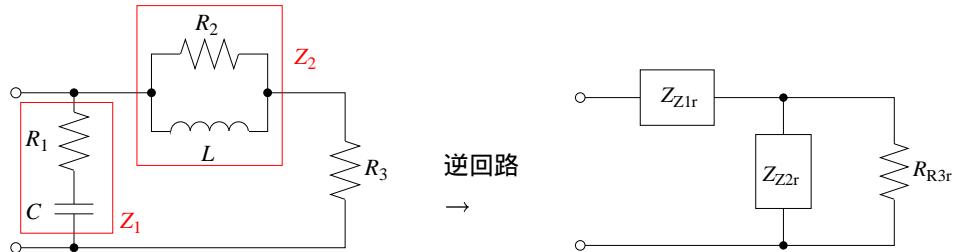
$$\begin{aligned} Z &= R_1 + (R_0 + Z_1)/(Z_2 + R_0) = R_1 + \frac{(R_0 + Z_1)(Z_2 + R_0)}{(R_0 + Z_1) + (Z_2 + R_0)} = R_1 + \frac{R_0^2 \left(1 + \frac{Z_1}{R_0}\right) \cdot \left(\frac{Z_2}{R_0} + 1\right)}{R_0 \left(\frac{Z_1}{R_0} + 2 + \frac{Z_2}{R_0}\right)} \\ &= R_1 + \frac{R_0(1 + \alpha) \left(\frac{1}{\alpha} + 1\right)}{\left(\alpha + 2 + \frac{1}{\alpha}\right)} = R_1 + R_0 \frac{(1 + \alpha)^2 / \alpha}{(1 + \alpha)^2 / \alpha} = R_1 + R_0 \end{aligned}$$

抵抗 R_1 に流れる電流は

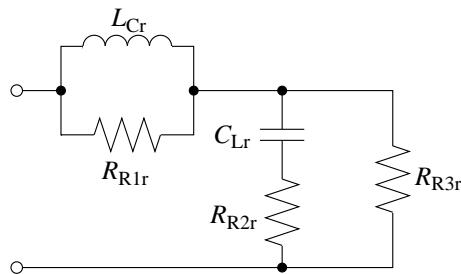
$$I = \frac{V}{R_0 + R_1}$$

と求まり、電源の周波数に依存しないことがわかる。

3. (a) 図3の回路を下図左のように表し、直列 \iff 並列変換を行い、逆回路を求めると下図右のようになる。



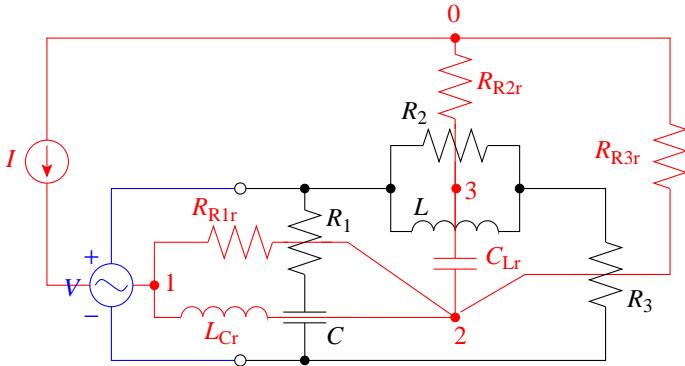
ここに Z_{Z1r} , Z_{Z2r} , R_{R3r} はそれぞれ Z_1 , Z_2 , R_3 に対する逆回路である。最後に, Z_1 , Z_2 の逆回路を求めて, Z_{Z1r} , Z_{Z2r} を置き換えると, 図3の逆回路として以下の回路を得る。



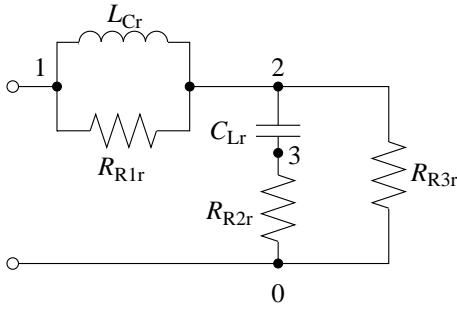
ここに, 各素子の値は以下の式で与えられる。

$$L_{Cr} = CR_0^2, \quad C_{Lr} = \frac{L}{R_0^2}, \quad R_{R1r} = \frac{R_0^2}{R_1}, \quad R_{R2r} = \frac{R_0^2}{R_2}, \quad R_{R3r} = \frac{R_0^2}{R_3}$$

- (b) 便宜的に端子間に電圧源を仮定し、各閉路内に節点を設けて、それぞれの素子を通るように節点間を結ぶと下図のようになる。



上図を整理して、電流源を取り除くと以下の逆回路が得られる。



ここに、各素子の値は以下の式で与えられる。

$$L_{Cr} = CR_0^2, \quad C_{Lr} = \frac{L}{R_0^2}, \quad R_{R1r} = \frac{R_0^2}{R_1}, \quad R_{R2r} = \frac{R_0^2}{R_2}, \quad R_{R3r} = \frac{R_0^2}{R_3}$$

- (c) まず、設問(a)の図の Z_1 , Z_2 を求めると

$$\begin{aligned} Z_1 &= R_1 + \frac{1}{j\omega C} = 2 - j2 \Omega \\ Z_2 &= R_2 // (j\omega L) = \frac{5 \cdot j\frac{5}{2}}{5 + j\frac{5}{2}} = \frac{j5}{2 + j} = \frac{j5(2 - j)}{2^2 + 1^2} = 1 + j2 \Omega \end{aligned}$$

と求まるので、合成インピーダンスは

$$Z_i = Z_1 // (R_3 + Z_2) = (2 - j2) // (2 + j2) = \frac{(2 - j2)(2 + j2)}{2 - j2 + 2 + j2} = \frac{2^2 + 2^2}{4} = 2 \Omega$$

逆回路の各素子の値は

$$L_{Cr} = \frac{1}{200\pi} \text{ H}, \quad C_{Lr} = \frac{1}{40\pi} \text{ F}, \quad R_{R1r} = 0.5 \Omega, \quad R_{R2r} = 0.2 \Omega, \quad R_{R3r} = 1 \Omega$$

であるので、逆回路の合成インピーダンスは

$$\begin{aligned} Z_{Z1r} &= R_{R1r} // (j\omega L_{Cr}) = \frac{0.5 \cdot j0.5}{0.5 + j0.5} = \frac{j}{2(1+j)} = \frac{j(1-j)}{2(1^2 + 1^2)} = \frac{1+j}{4} \Omega \\ Z_{Z2r} &= R_{R2r} + \frac{1}{j\omega C_{Lr}} = 0.2 - j\frac{2}{5} = 0.2 - j0.4 \Omega \end{aligned}$$

より

$$\begin{aligned} Z_{ir} &= Z_{Z1r} + (Z_{Z2r} // R_{R3r}) = \frac{1+j}{4} + \frac{(0.2 - j0.4) \cdot 1}{0.2 - j0.4 + 1} = \frac{1+j}{4} + \frac{1-j2}{6-j2} \\ &= \frac{1+j}{4} + \frac{(1-j2)(3+j)}{2(3^2 + 1^2)} = \frac{1+j}{4} + \frac{5-j5}{20} = \frac{1+j}{4} + \frac{1-j}{4} = \frac{1}{2} \Omega \end{aligned}$$

したがって

$$Z_i \cdot Z_{ir} = 2 \cdot \frac{1}{2} = 1 = R_0^2$$

小テスト

1. 図 1 に示す回路において、 Z_1 と Z_2 が R_0 に関して互いに逆回路の関係にあるとき、抵抗 R_1 に流れる電流が周波数によらず一定であることを確かめよ。
2. 図 2 に示す回路に関して以下の間に答よ。
 - (a) 直列 \Leftrightarrow 並列変換を行うことで R_0 に関する逆回路を求めよ。
 - (b) 端子間に電圧源を仮定し、独立な閉回路内および回路の外側に節点を置き、これらの節点間を結ぶ線が各素子を横切るように線を引くことで、 R_0 に関する逆回路を求めよ。
 - (c) $R_0 = 1 \Omega$, $R_1 = 2 \Omega$, $R_2 = 2 \Omega$, $L_1 = \frac{1}{100\pi} \text{ H}$, $C_1 = \frac{1}{200\pi} \text{ F}$, $C_2 = \frac{1}{400\pi} \text{ F}$, $f = 50 \text{ Hz}$ の場合に対して、図 2 の回路のインピーダンス Z_i と逆回路のインピーダンス Z_{ir} を求め、 $Z_i \cdot Z_{ir} = R_0^2$ となることを確かめよ。

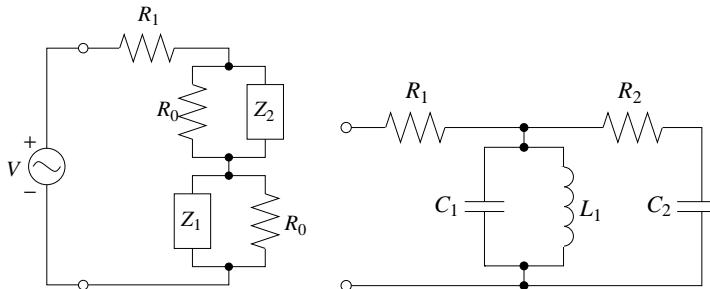


図 1

図 2

解答

1. Z_1 と Z_2 は逆回路の関係にあるので、以下のように α を定義する。

$$Z_1 \cdot Z_2 = R_0^2 \quad \rightarrow \quad \frac{Z_1}{R_0} = \frac{R_0}{Z_2} = \alpha$$

電源から右側を見た合成インピーダンス Z は

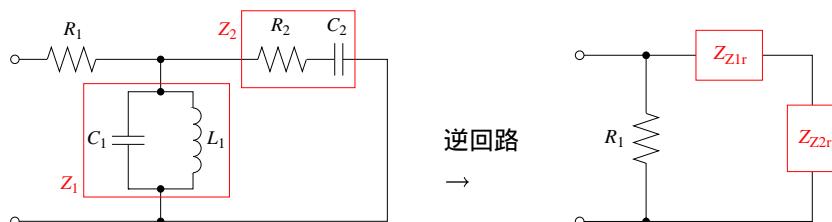
$$\begin{aligned} Z &= R_1 + (R_0//Z_1) + (R_0//Z_2) = R_1 + \frac{R_0 Z_1}{R_0 + Z_1} + \frac{R_0 Z_2}{R_0 + Z_2} = R_1 + \frac{Z_1}{1 + \frac{Z_1}{R_0}} + \frac{R_0}{\frac{Z_2}{R_0} + 1} \\ &= R_1 + \frac{Z_1}{1 + \alpha} + \frac{R_0}{\alpha + 1} = R_1 + \frac{R_0 + Z_1}{1 + \alpha} = R_1 + \frac{R_0 \left(1 + \frac{Z_1}{R_0}\right)}{1 + \alpha} = R_1 + \frac{R_0(1 + \alpha)}{1 + \alpha} = R_1 + R_0 \end{aligned}$$

抵抗 R_1 に流れる電流は

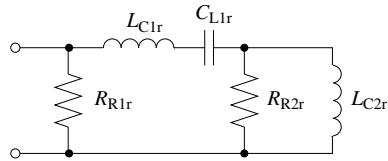
$$I = \frac{V}{R_0 + R_1}$$

と求まり、電源の周波数に依存しないことがわかる。

2. (a) 図 2 の回路を下図左のように表し、直列 \Leftrightarrow 並列変換を行い、逆回路を求める下図右のようになる。



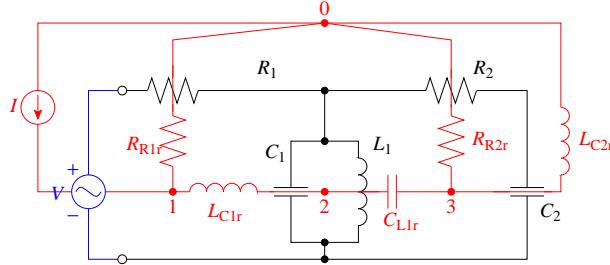
ここに Z_{Z1r} , Z_{Z2r} , R_{R1r} はそれぞれ Z_1 , Z_2 , R_1 に対する逆回路である。最後に、 Z_1 , Z_2 の逆回路を求めて、 Z_{Z1r} , Z_{Z2r} を置き換えると、図 3 の逆回路として以下の回路を得る。



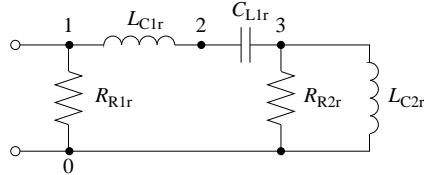
ここに、各素子の値は以下の式で与えられる。

$$L_{C1r} = C_1 R_0^2, \quad L_{C2r} = C_2 R_0^2, \quad C_{L1r} = \frac{L_1}{R_0^2}, \quad R_{R1r} = \frac{R_0^2}{R_1}, \quad R_{R2r} = \frac{R_0^2}{R_2}$$

- (b) 便宜的に端子間に電圧源を仮定し、各閉路内に節点を設けて、それぞれの素子を通るように節点間を結ぶと下図のようになる。



上図を整理して、電流源を取り除くと以下の逆回路が得られる。



ここに、各素子の値は以下の式で与えられる。

$$L_{C1r} = C_1 R_0^2, \quad L_{C2r} = C_2 R_0^2, \quad C_{L1r} = \frac{L_1}{R_0^2}, \quad R_{R1r} = \frac{R_0^2}{R_1}, \quad R_{R2r} = \frac{R_0^2}{R_2}$$

- (c) まず、設問(a)の図の Z_1, Z_2 を求めると

$$Z_1 = (j\omega L_1) // \frac{1}{j\omega C_1} = j // (-j2) = \frac{j \cdot (-j2)}{j - j2} = \frac{2}{-j} = j2 \Omega$$

$$Z_2 = R_2 + \frac{1}{j\omega C_2} = 2 - j4 \Omega$$

と求まるので、合成インピーダンスは

$$\begin{aligned} Z_i &= R_1 + Z_1 // (Z_2) = 2 + (j2) // (2 - j4) = 2 + \frac{j2(2 - j4)}{j2 + 2 - j4} = 2 + \frac{8 + j4}{2 - j2} = 2 + \frac{2(2 + j)}{1 - j} \\ &= 2 + \frac{2(2 + j)(1 + j)}{1^2 + 1^2} = 2 + 1 + j3 = 3(1 + j) \Omega \end{aligned}$$

逆回路の各素子の値は

$$L_{C1r} = \frac{1}{200\pi} \text{ H}, \quad L_{C2r} = \frac{1}{400\pi} \text{ H}, \quad C_{L1r} = \frac{1}{100\pi} \text{ F}, \quad R_{R1r} = \frac{1}{2} \Omega, \quad R_{R2r} = \frac{1}{2} \Omega$$

であるので、逆回路の合成インピーダンスは

$$Z_{Z1r} = \frac{1}{j\omega C_{L1r}} + j\omega L_{C1r} = -j + j\frac{1}{2} = -j\frac{1}{2} \Omega$$

$$Z_{Z2r} = R_{R2r} // (j\omega L_{C2r}) = \frac{1}{2} // j\frac{1}{4} = \frac{\frac{1}{2} \cdot j\frac{1}{4}}{\frac{1}{2} + j\frac{1}{4}} = \frac{j}{2(2 + j)} \Omega$$

より

$$Z_{ir} = R_{R1r} // (Z_{Z1r} + Z_{Z2r}) = \frac{1}{2} // \left(-j\frac{1}{2} + \frac{j}{2(2 + j)} \right) = \frac{1}{2} // \left(\frac{1 - j}{2(2 + j)} \right) = \frac{\frac{1}{2} \cdot \frac{1-j}{2(2+j)}}{\frac{1}{2} + \frac{1-j}{2(2+j)}}$$

$$= \frac{\frac{1}{2}(1 - j)}{(2 + j) + (1 - j)} = \frac{1 - j}{6} \Omega$$

したがって

$$Z_i \cdot Z_{ir} = 3(1 + j) \cdot \frac{1 - j}{6} = 1 = R_0^2$$